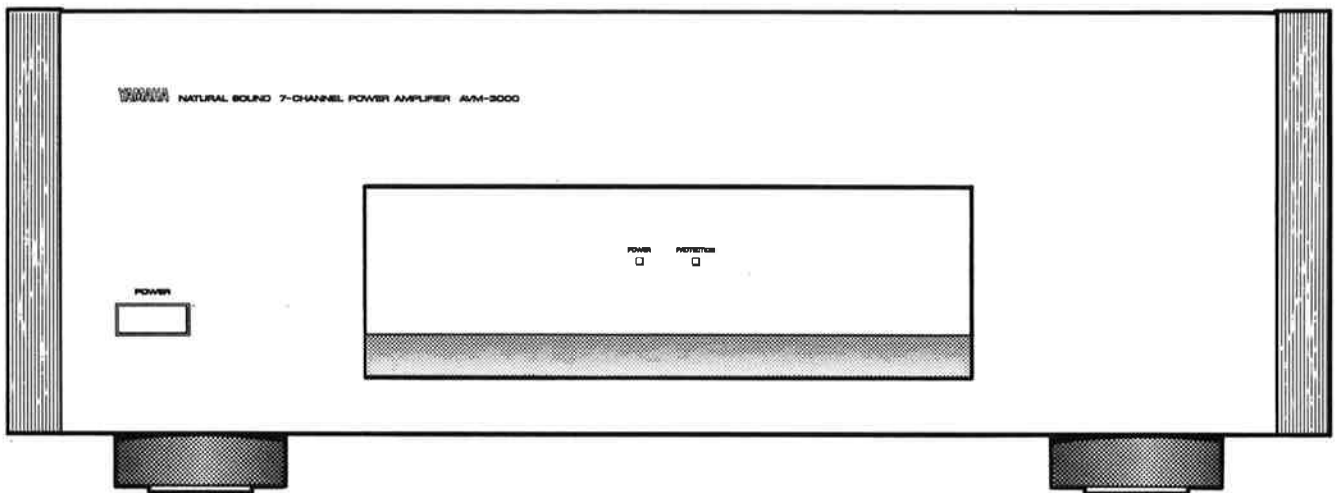


YAMAHA

NATURAL SOUND
7-CHANNEL POWER AMPLIFIER

AVM-3000

取扱説明書



このたびは、YAMAHA 7チャンネルパワーアンプAVM-3000
をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

AVM-3000の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障な
くお使いいただくため、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読み
ください。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを
行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありません
と、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいた
だくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用の前に必ずお読みください。

特 長

●完全独立7チャンネルマルチアンプを搭載

トランス巻線から分離した完全独立5ブロック構造のL, C, R各チャンネルおよびフロント2ch, リア2chのエフェクトアンプを搭載。チャンネル間の相互変調や音質混濁による劣化を排除し、ヤマハAVC-3000DSPとシステム接続可能な7チャンネルハイクオリティマルチパワーアンプです。

●AVC-3000DSP専用のシステムコネクタを装備

専用システムコネクタの装備により、システムコード一本で簡単にAVコントロールアンプAVC-3000DSPと接続でき、7チャンネルの音声出力信号全てが本機とバランス伝送・高音質で結線されます。さらにAVコントロールアンプからの電源のON/OFFや、9チャンネルへの拡張（7ページ参照）が可能となります。

●多様な入力に対応する入力端子

専用のシステムコード一本で接続できるシステムコネクタを始めとし、L, C, R各チャンネルアンプの入力には位相切り替え付きキャノンコネクタを装備、バランス/アンバランス（ピンタイプ）入力の切り替えも可能で、業務用としての使用にも対応できます。フロント2ch, リア2chのエフェクトアンプはピンタイプのアンバランス入力。各アンプ共独立して入力の選択ができ、さらに独立したレベルコントロールが装備されています。

●音質劣化を抑えた大型スピーカー端子

金メッキ処理の大型スピーカー端子を採用、音質の劣化を最小限に抑えています。特にL, C, Rチャンネルには超大型端子を採用しており、極太スピーカーケーブルの接続が可能です。

●大型トランスにサポートされた強力電源部

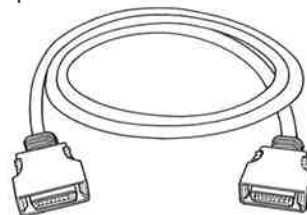
低磁束設計の余裕ある低漏洩磁束大型トランスと、厳選されたパーツにサポートされた強力電源部を搭載。大出力時にもクリアな再生音と、圧倒的な迫力や臨場感が再現されます。

目 次

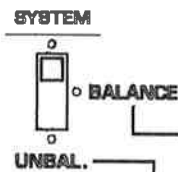
特長	2
豊かなAVライフのために（使用上のご注意）	3
各部の名称とはたらき	
フロントパネル	4
リアパネル	4
入出力部	5
AVC-3000DPSとの接続	6
スピーカーの配置	7
スピーカー/電源コードの接続	
7チャンネルスピーカーシステム	8
9チャンネルスピーカーシステム	9
AVC-3000DSP以外のコントロールアンプとの接続	10
キャノンコネクタについて	11
故障かなと思ったら	12
設置場所とご使用方法について	12
参考仕様/特性図	13
ブロックダイアグラム	14
ヤマハホットラインサービスネットワーク	15

■付属品

付属品を確認してください。
システムコード



- ・システムコードは、本機とAVC-3000DSPをシステム接続する専用コードです。
 - ・工場出荷の際、各チャンネルの入力モードスイッチは“SYSTEM”側にセットされています。AVC-3000DSP以外のコントロールアンプと接続する場合には、入力モードスイッチを“BALANCE”または“UNBAL.”側にセットしてください。（5ページ参照）
- *入力モードスイッチと接続があてないと音が出ませんのでご注意ください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

豊かなAVライフのために (使用上のご注意)

■電源

国内のみでご使用ください。
家庭用電源コンセント (AC100V) に接続してください。

■電源コード

電源コードはひっぱらないでください。(プラグを持って抜いてください。)

電源コードの上に重い物をのせないでください。

*電源コードが断線したり、感電の原因になります。

■本体

キャビネットは開けないでください。

セットの中に金属類 (針・硬貨など) を入れないでください。

セットの中に液体 (水・アルコールなど) を入れないでください。

セットの中に燃えやすいもの (紙・布など) を入れないでください。

い。

*火災・感電・故障の原因になります。

■設置場所

ご使用中は熱を発生します。設置の際は通気性の良い場所を選び放熱を妨げないようにしてください。

ぐらついた台の上や、傾いた所には置かないでください。

*落ちたり、倒れたりして危険です。

湿気の多い所、ほこりの多い所、直射日光の当たる所、温度の高い所、極端に寒い所には設置しないでください。

*動作不良や故障の原因になります。

■長期間

旅行や外出などで長期間留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

*不慮の事故が防げます。

■異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、お買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

高温・低温はさけて!

窓際や直射日光のあたる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所 (周囲温度40℃以上)
・温度の特に低い場所 (周囲温度-5℃以下)
・湿度の多い場所 (湿度90%以上) は、さけてください。



ほこり・水気をさけて!

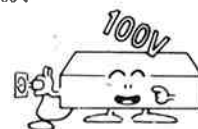


不安定な場所はさけて!

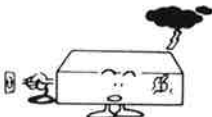


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

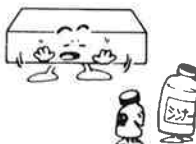


雷が近づいたら

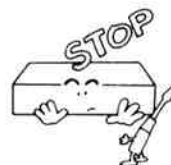


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

薬物厳禁



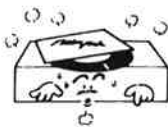
開けないで!



引っっぱらないで!



セット上面の通風孔をふさがない



放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。

こわれた?



12ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続を!

お買い求めいただきました際、購入店に必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



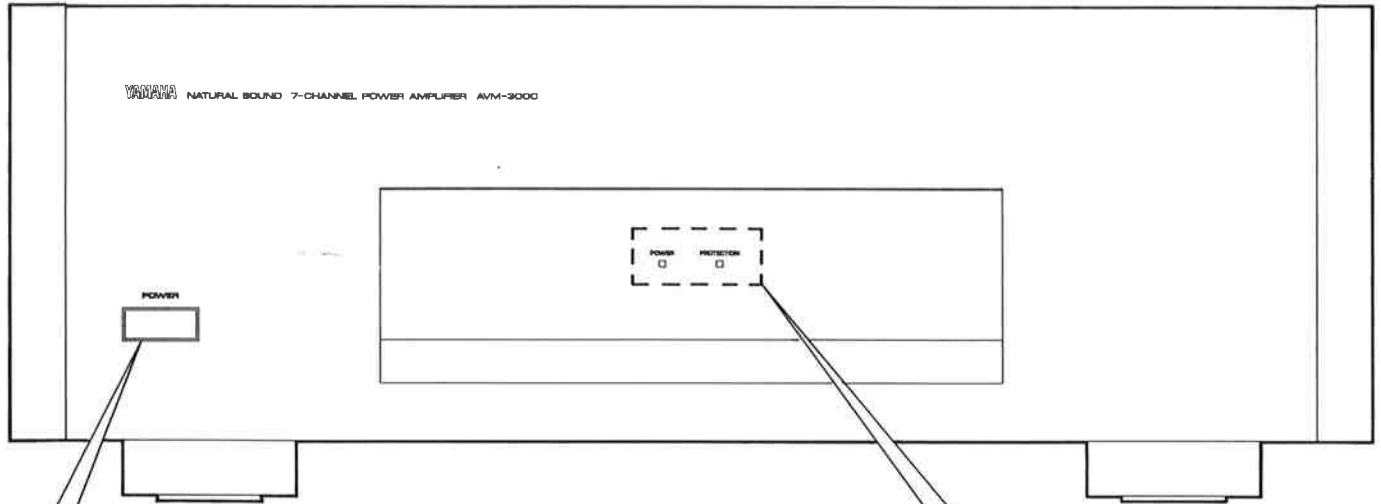
取扱説明書はかならず保管してください。



ファイルなど

各部の名称とはたらき

■フロントパネル



POWERスイッチ

本機の電源をON/OFFします。

- * 電源をONにしても最初の数秒間は、ショックノイズからスピーカーを保護するプロテクション（保護）回路が働き、音はでません。
- * AVC-3000DSPのPOWERスイッチと連動して本機の電源をON/OFFされる場合は、システムコネクターを接続し本機のPOWERスイッチをONにしておいてください。

POWERインジケータ

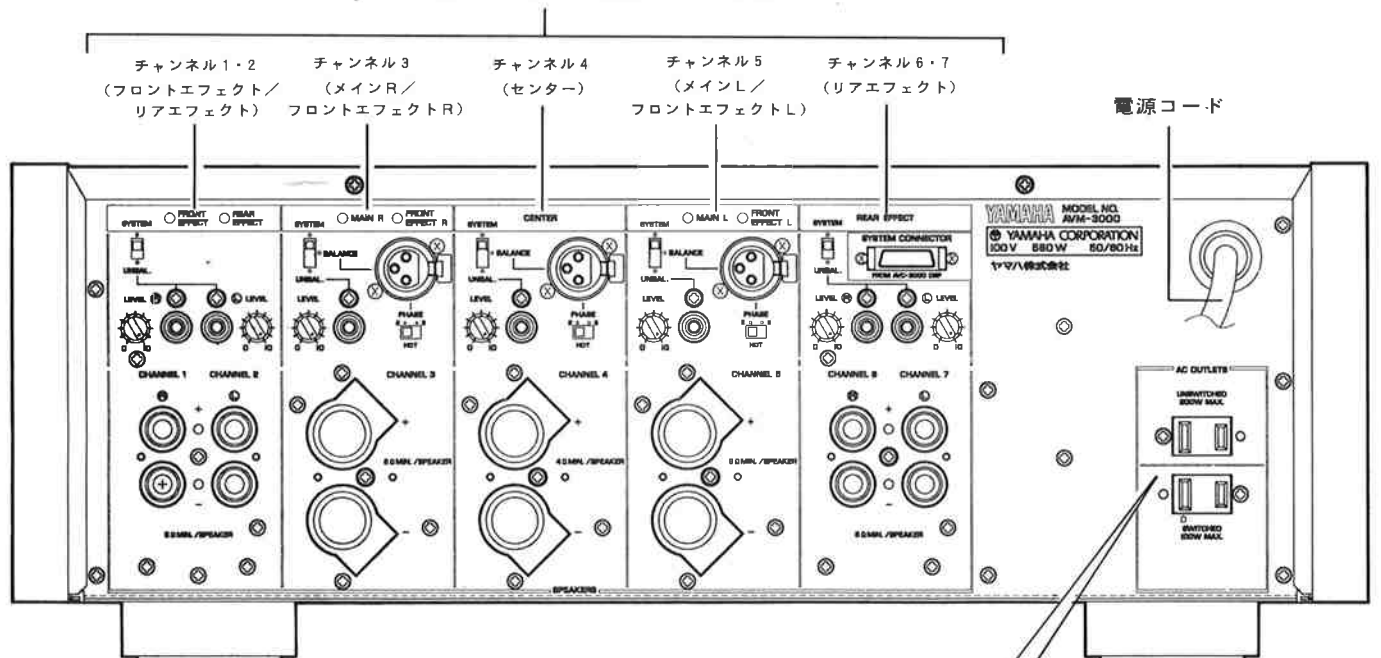
電源をONすると、このインジケータが点灯し、本機が動作していることを示します。

PROTECTIONインジケータ

プロテクション（保護）回路が動作していることを知らせるインジケータです。

■リアパネル

7チャンネルのパワーアンプ構成になっています。



AC OUTLET（電源供給コンセント）

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントです。

本機コンセントの長い方の穴がアース側となっております。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。

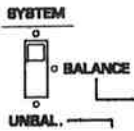
アン スイッチド
UNSWITCHED：本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

スイッチド
SWITCHED：本機のPOWERスイッチと連動しています。消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続できます。

■入出力部

入力モードスイッチ

各チャンネルの入力モードスイッチです。接続方法に合わせて切り替えてください。



システム
SYSTEM :

AVC-3000DSPとシステム接続する場合は、SYSTEM側にします。

バランス (チャンネル3~5のみ) :

チャンネル入力端子に接続する場合は、BALANCE側にします。

アンバランス
UNBAL. :

ピン入力端子に接続する場合は、UNBAL.側にします。

*入力モードスイッチと接続方法が合致していないと音が出ませんので、ご注意ください。

レベル LEVELコントロール

各チャンネルのLEVELコントロールです。スピーカーの能率等により音量差が生じた場合、このつまみで調整してください。通常は最大“10”の位置にしておきます。



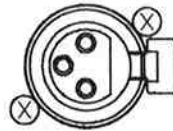
ピン入力端子

各チャンネルのピン入力端子です。AVC-3000DSP以外のコントロールアンプを使用する場合、この入力端子に接続してください。



キャノン入力端子 (チャンネル3~5のみ)

キャノンコネクター用入力端子です。バランスタイプ出力のコントロールアンプを使用する場合、この入力端子に接続してください。



フェーズ PHASEスイッチ (チャンネル3~5のみ)

チャンネル入力端子に接続される信号の(+)側と(-)側を切り替えるスイッチです。

*詳しくは11ページのキャノンコネクターについてを参照してください。

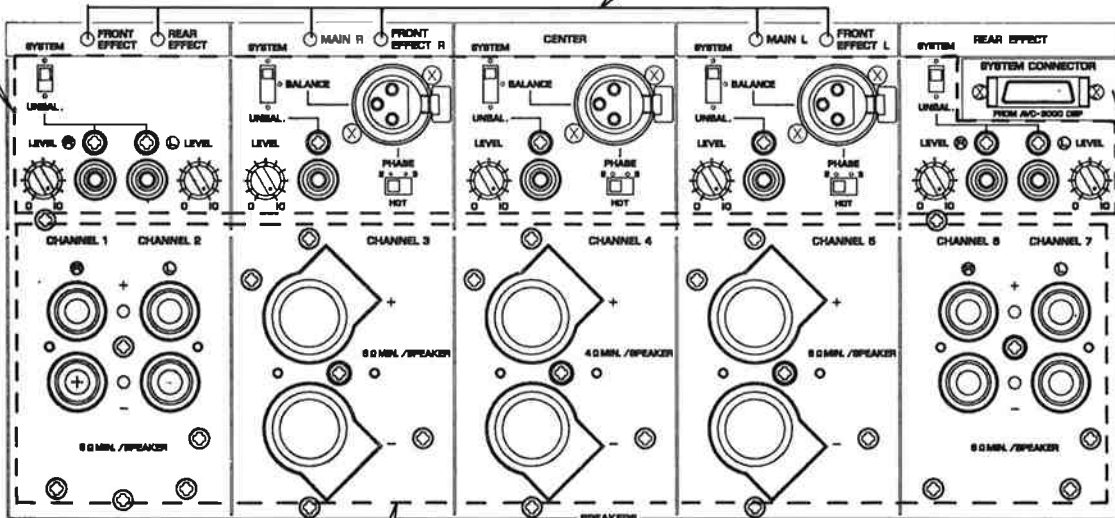


出力チャンネルインジケータ (チャンネル1・2 / チャンネル3 / チャンネル5のみ)

本機とペアとなるAVコントロールアンプAVC-3000DSPとシステム接続した場合、AVC-3000DSPのシステムモードスイッチの操作により、チャンネル1・2 / チャンネル3 / チャンネル5の出力表示が切り替わります。

詳しくは7ページを参照してください。

*入力モードスイッチが“SYSTEM”側でのみ動作します。



スピーカー端子

チャンネル1・2 / 6・7は60W×2 (6Ω) 出力のスピーカー端子で、エフェクトスピーカーを接続します。

チャンネル3~5は120W (6Ω) 出力のスピーカー端子で、メインR、センター、メインLスピーカーを接続します。接続する際は、各スピーカーのL、R、+、-を確認して正しく接続してください。(チャンネル4は4Ω対応です。)

*チャンネル3~5のスピーカー出力は、バランス回路を採用しておりますので、スピーカーの“-”側端子をグラウンドに接続しないでください。

システムコネクター

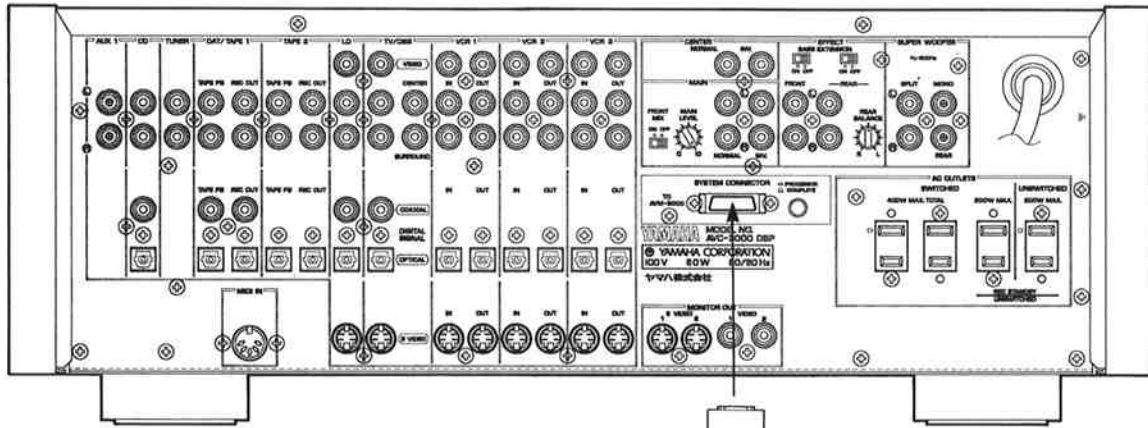
本機とペアのAVコントロールアンプAVC-3000DSPと接続する場合の専用システムコネクターです。

AVC-3000DSPとの接続

本機とペアのAVコントロールアンプAVC-3000DSP（別売）と接続する場合、本機のシステムコネクタに一本のシステムコード（付属）だけでシステム接続することができ、大変便利です。システム接続することにより、7チャンネルの音声信号が全てバランス伝送となり音質的にも有利となります。またAVC-3000DSPから本機の電源のON/OFFや、9チャンネルへの拡張が可能となります。

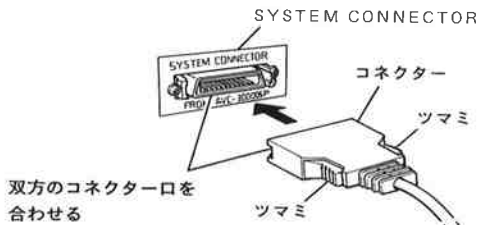
接続するときは、各機器の電源を切ってください。

AVC-3000DSP



システムコードの接続

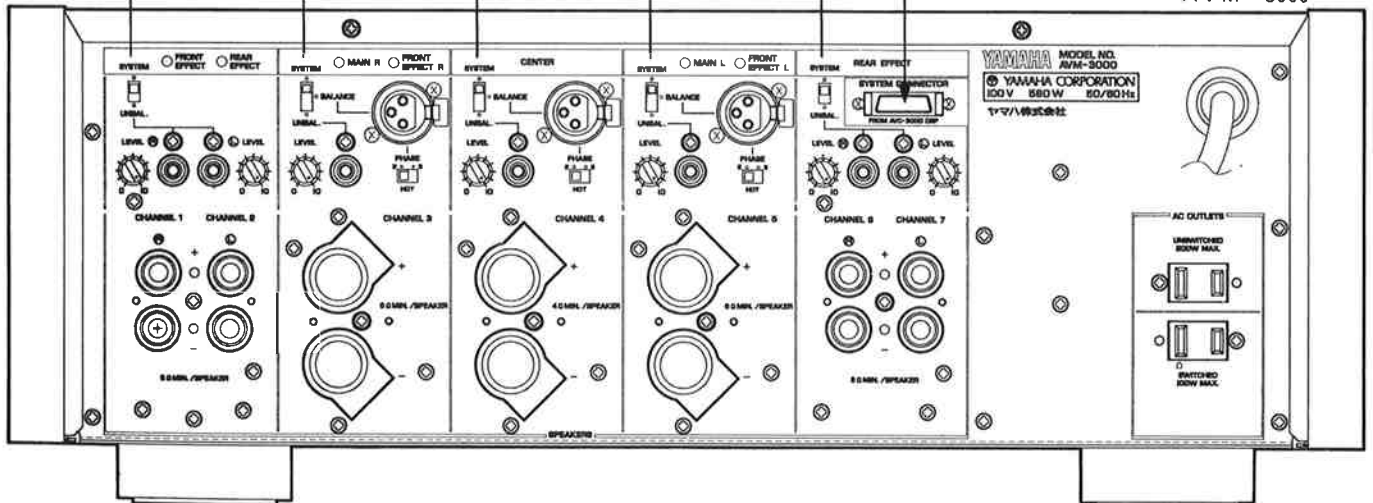
- 1) SYSTEM CONNECTORにかぶせられているキャップ（チューブ）を外します。
- 2) システムコードのコネクターをSYSTEM CONNECTORに差し込みます（ロックされる）。外す場合は、必ずコネクター部両わきのツマミを押さえて（ロック解除）、抜いてください。



システムコード（付属）

各チャンネルの入力モードスイッチを“SYSTEM”にセットしてください。

AVM-3000



スピーカーの配置

ヤマハDSPシステムのスピーカー配置は、7チャンネルシステムが基本になっています(図A)。通常はこのスピーカー配置で、DSP再生を行います。

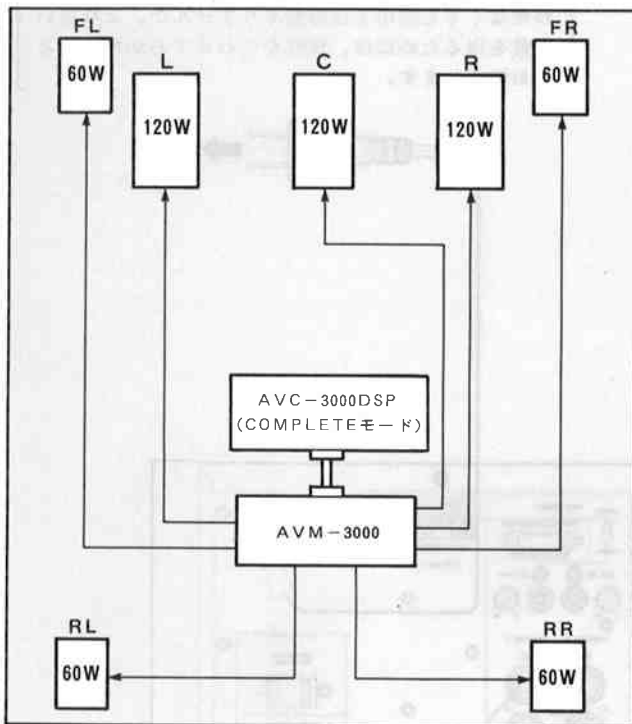
このスピーカー配置に、さらに後方にリアエフェクトスピーカーを2本追加して9チャンネルシステムに拡張することにより、一般の映画館と同様に多数のサラウンドスピーカーを配置することが可能です(図B)。後方のサラウンド音のよりスムーズなつながりを得たいときや、広い部屋での良質なDSP再生を可能にします。

AVC-3000DSPとAVM-3000の組み合わせシステムでは、お手持ちの2チャンネルパワーアンプを追加して、簡単に9チャンネルシステムへの拡張ができます。

この場合、メインL,Rチャンネルをお手持ちの2チャンネルパワーアンプが受け持ち、センターとエフェクトチャンネルの7チャンネルをAVM-3000で駆動する9チャンネルシステムとなります。

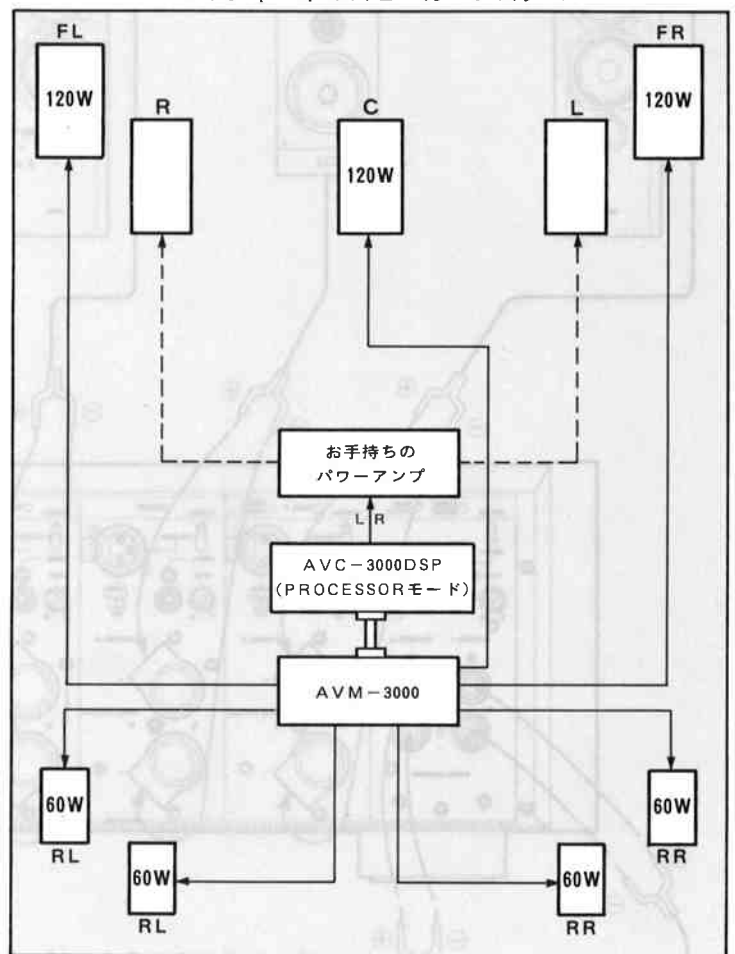
システムコネクターの接続はそのまま、AVC-3000DSP側のシステムモードスイッチを“PROCESSOR”にするとAVM-3000の受け持つチャンネルが入れ替わります。その結果、フロントエフェクトを受け持つパワーアンプが120Wに強化され、同時にリアエフェクトのL,Rにそれぞれ2本ずつのスピーカーを設置することができます。

● 7チャンネルスピーカーシステム



図A

● 9チャンネルスピーカーシステム

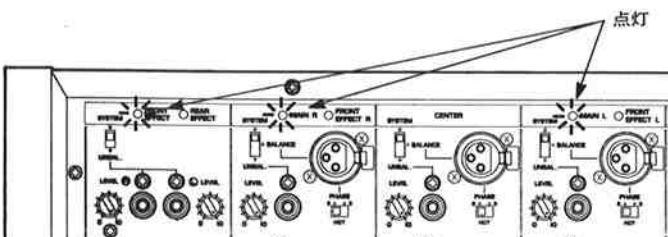


図B

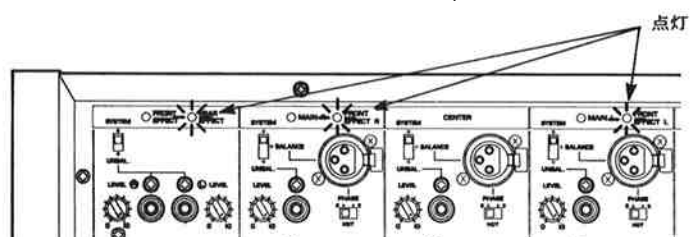
* AVM-3000の受け持つチャンネルを、リアパネル側の出力チャンネルインジケータで表示します。

(AVC-3000DSP側のシステムモードスイッチにより切り替えます。)

COMPLETEモード



PROCESSORモード



スピーカー／電源コードの接続

- 接続するときは本機の電源を切ってください。
接続する際、右チャンネル (R), 左チャンネル (L), “+” (赤), “-” (黒) を確認して正しく接続してください。極性 (+, -) を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。

- 接続するスピーカーのインピーダンスは $6\ \Omega$ 以上 (ただしセンターは $4\ \Omega$ 以上) のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーをご使用の場合には、故障するおそれがあります。
- 接続するスピーカーの取扱説明書も併せてご覧ください。


■ 7チャンネルスピーカーシステム

メインスピーカー (右)

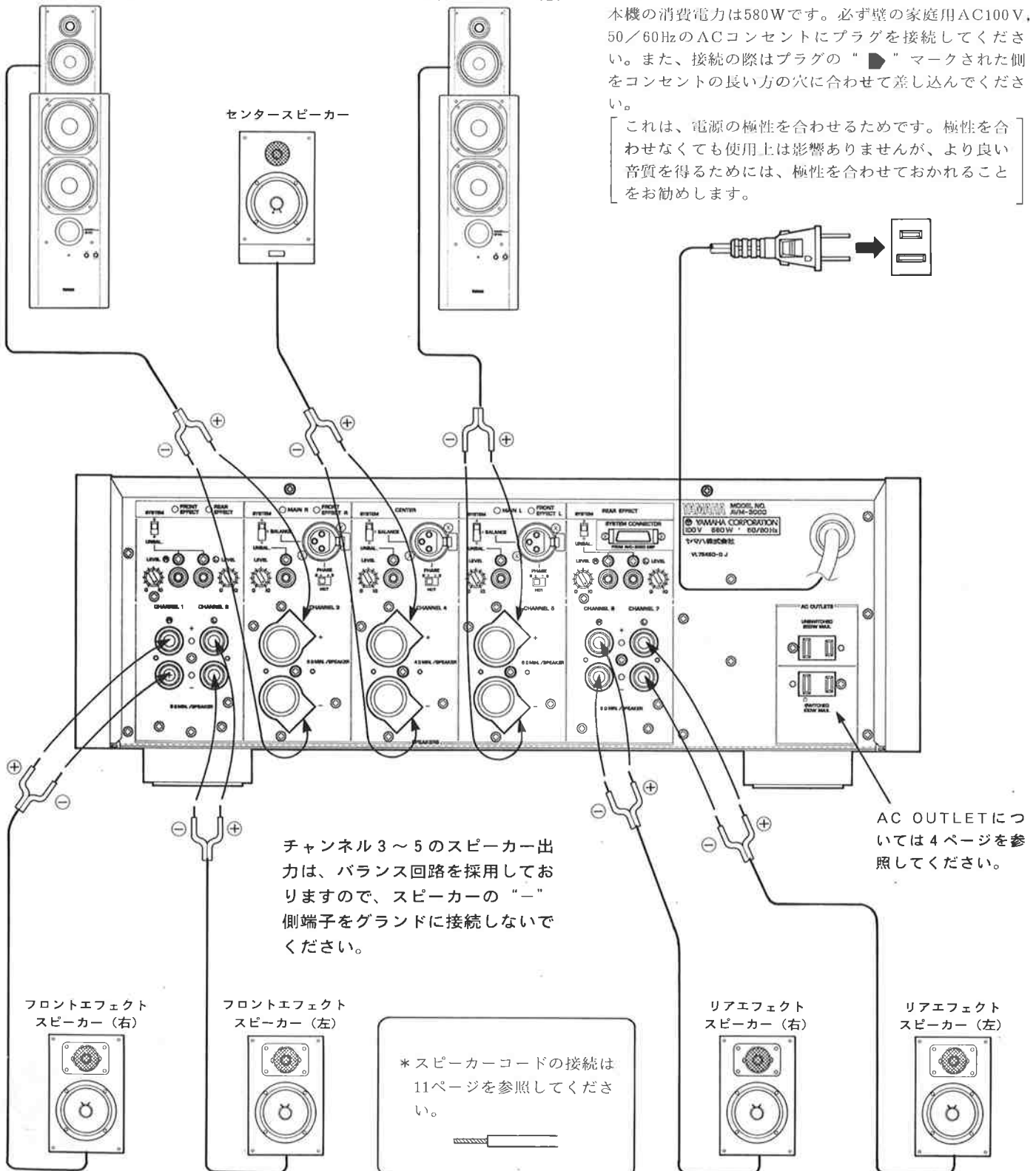
メインスピーカー (左)

センタースピーカー

電源コード

本機の消費電力は580Wです。必ず壁の家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。また、接続の際はプラグの“”マークされた側をコンセントの長い方の穴に合わせて差し込んでください。

これは、電源の極性を合わせるためです。極性を合わせなくても使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためには、極性を合わせておかれることをお勧めします。



■ 9 チャンネルスピーカーシステム

フロントエフェクト
スピーカー (右)

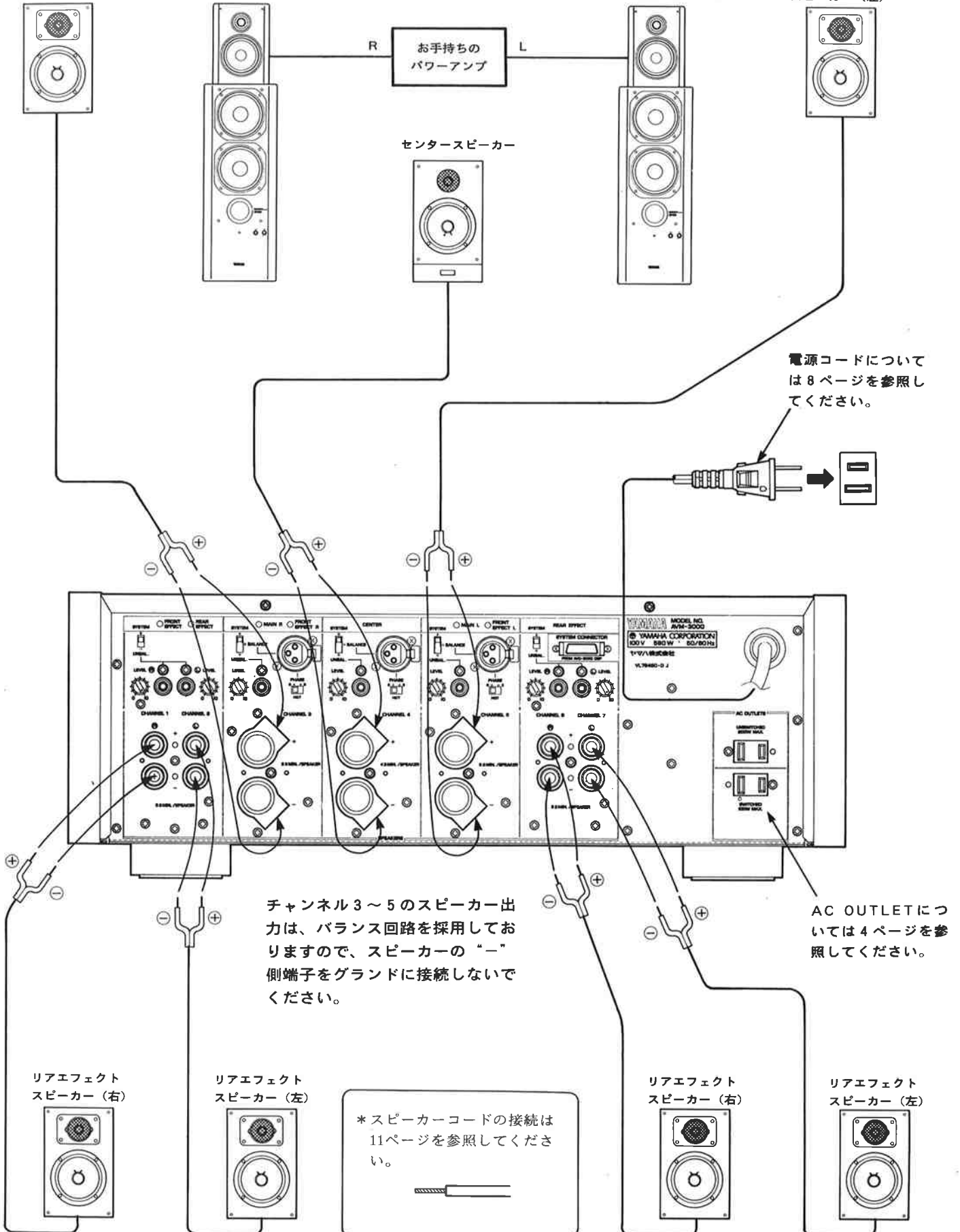
メインスピーカー (右)

メインスピーカー (左)

フロントエフェクト
スピーカー (左)

センタースピーカー

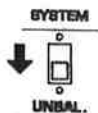
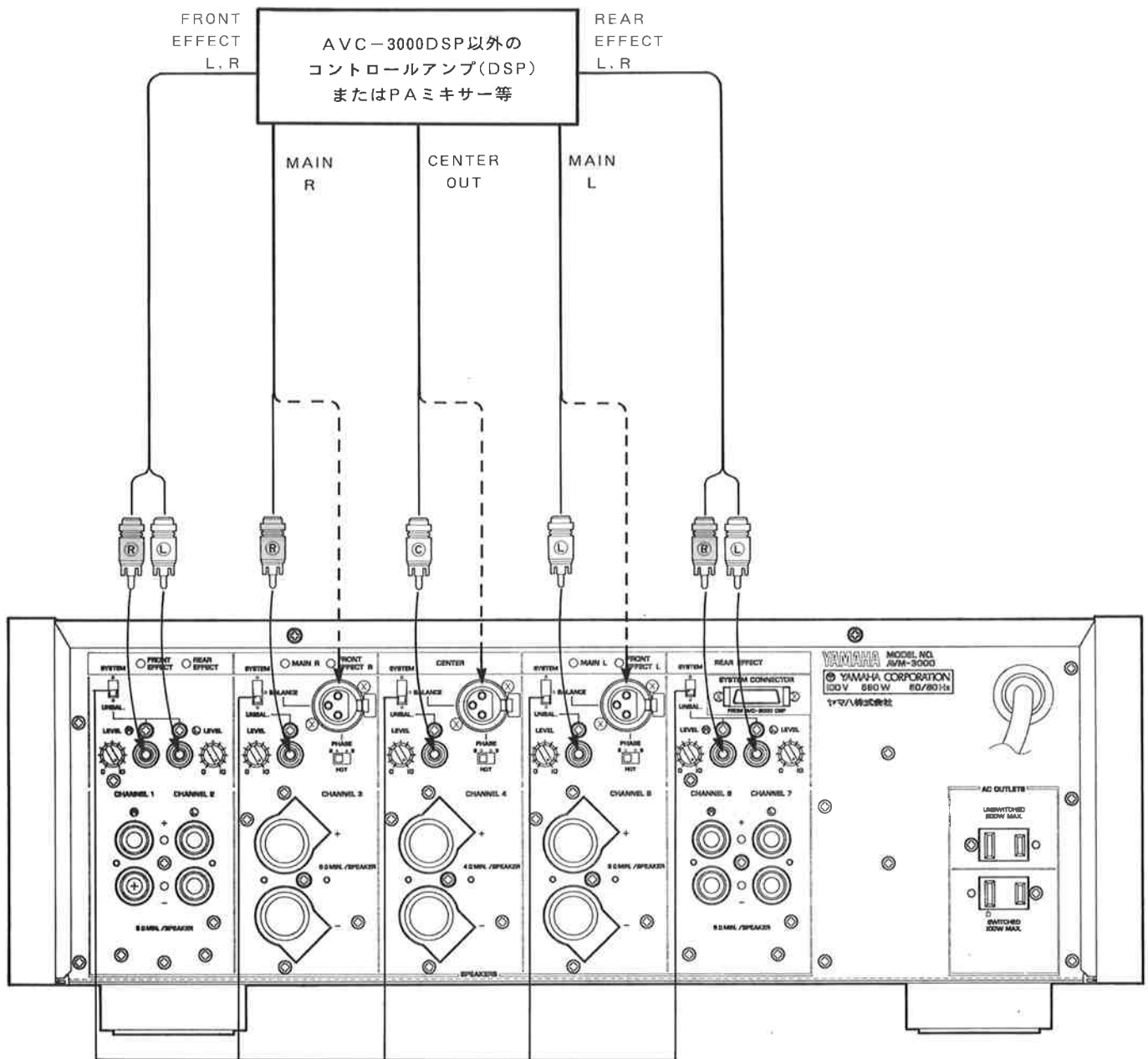
電源コードについ
ては 8 ページを参照し
てください。



AVC-3000DSP以外のコントロールアンプとの接続

AVC-3000DSP以外のコントロールアンプを使用する場合、各チャンネル毎の入力端子と接続してください。

- ・接続するコントロールアンプは、DSP等の7チャンネルシステムを主にして説明しています。
- ・接続するときは各機器の電源を切ってください。
- ・右チャンネル (R), 左チャンネル (L), 入力 (IN), 出力 (OUT) を確認して正しく接続してください。
- ・接続するアンプによって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- ・接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。
- ・スピーカーの接続は、8 ページを参照してください。



各チャンネルの入力モードスイッチを“UNBAL”にセットしてください。
ただし、チャンネル3～5（メインL, R, センター）をキャノンコネクターで接続した場合は、チャンネル3～5の入力モードスイッチを“BALANCE”に切り換えてください。

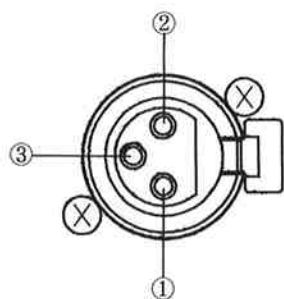
■キャノンコネクターについて

本機は、チャンネル3～5の入力端子に、位相切り替え付きキャノンコネクター(XA16PRM-3SE)を装備しています。接続する際、接続コードにはキャノンコネクターHA16JA-3Pまたは同等品を使用してください。

ただし、同じキャノンタイプでありながら、アメリカ方式とヨーロッパ方式があり、接続ピンの(+)側と(-)側の接続方法が異なります。

接続後は、必ず出力側のピン構成を確認し、本機の位相切り替えスイッチで位相を合わせてください。また、入力モードスイッチを“BALANCE”側にするのも忘れずに行ってください。

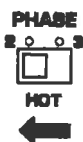
*接続した機器の取扱説明書を参照して、必ずキャノンコネクター出力のピン構成を確認してください。



●ヨーロッパ方式

- ①ピン：グラウンド
- ②ピン：ホット (+)
- ③ピン：コールド (-)

この場合、位相切り替えスイッチを“2”に合わせてください。

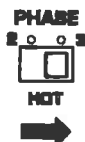


(ヤマハGT-CD1はこのポジションでお使いください。)

●アメリカ方式

- ①ピン：グラウンド
- ②ピン：コールド (-)
- ③ピン：ホット (+)

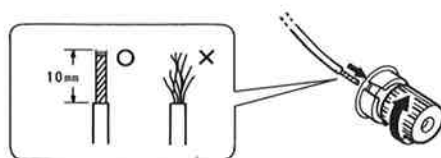
この場合、位相切り替えスイッチを“3”に合わせてください。



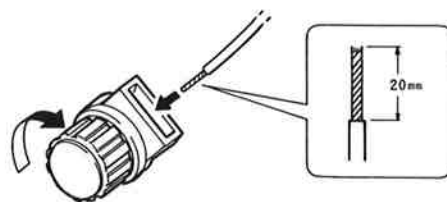
■スピーカーコードの接続

- 1) スピーカーコード先端の絶縁部を、接続するチャンネルのスピーカー端子に合わせて10mm (20mm) 位はがします。
チャンネル1, 2, 6, 7へ接続する場合………10mm
チャンネル3, 4, 5へ接続する場合………20mm
- 2) 芯線がバラつかないように、手でしっかり“より”を掛けます。
- 3) スピーカー端子のツマミを左(反時計方向)に回して緩め、スピーカーコードの芯線を端子穴に差し込みます。
*スピーカーコードの芯線が、他の端子や金属部分に接触しないように差し込んでください。
- 4) スピーカー端子のツマミを右(時計方向)に回して締め付けます。

チャンネル1, 2, 6, 7

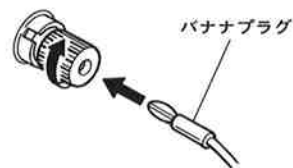


チャンネル3, 4, 5



チャンネル1, 2, 6, 7のスピーカー端子は、バナナプラグ対応です。

バナナプラグを使用する場合、端子のツマミを強く締めてから差し込んでください。



故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの差し込みが不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音がでない	入力コード又はスピーカーケーブルの接続が不完全	接続を確認してください
	コントロールアンプの操作が間違っている	コントロールアンプのスイッチの位置を確認してください
	入力モードスイッチの操作が間違っている	AVC-3000DSPと接続した場合は、“SYSTEM”側にセットしてください
		AVC-3000DSP以外のコントロールアンプと接続した場合は、接続に合わせて“BALANCE”または“UNBAL.”側にセットしてください
	LEVELツマミが左一杯(反時計方向)になっている	LEVELツマミを右(時計方向)に回してください
プロテクション回路が作動している	スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください	
ブーンというハム音が出る	入力コードのプラグの接触不良	入力コードのプラグをしっかりと差し込みなおしてください
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない	本機とスピーカーの位相(+、-)が合っていない	スピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください

設置場所とご使用方法についてのお願い

- インピーダンスの低いスピーカーを使用していませんか？
スピーカーのインピーダンスは6Ω以上（センターは4Ω以上）のものを使用してください。
- 前面吸気・上面排気による冷却方式になっておりますので、本機の前面及び上面を塞がないでください。
- ラックに本機を組み込んで使用する場合は、通気性をよくするため本機上面のスペースを10cm以上開けて収納してください。また、ラック前面のガラス扉等は閉めずに、解放した状態で使用してください。（ラック後面を全面解放する方法もあります）
この状態でも夏場や設置場所によって長時間使用すると、アンプから発生した熱でラック内の空気が暖められ、アンプの環境温度が上がります。この場合、ラック内の温度を下げるため換気を行ってください。
（暖かい空気はラックの上部にたまりますので、上部から換気するのが効果的です）

以上の点を守ってご使用頂いてもアンプ内の温度が高くなる場合があります。

この場合、本体内部が設定温度に達すると内部の冷却ファンが自動的に回転します（静かな部屋では回転音が聞こえます）が故障ではありません。温度が低下すると自動的に停止します。

参考仕様 / 特性図

■参考仕様

定格出力 (20Hz~20kHz)

チャンネル3~5 (0.003%THD、6Ω)	120W×3
チャンネル1, 2, 6, 7 (0.003%THD、6Ω)	60W×4

入力感度 / 入力インピーダンス

チャンネル3, 4, 5	
BALANCE	1V / 16kΩ
UNBAL.	1V / 10kΩ
チャンネル1, 2, 6, 7	
UNBAL.	0.7V / 8kΩ

S/N (IHF-A)

108dB

セパレーション

チャンネル3~5	100dB
----------	-------

残留ノイズ (IHF-A)

30μV

周波数特性

5Hz~300kHz	+0, -3dB
------------	----------

電源電圧

AC100V, 50/60Hz

消費電力

580W

ACアウトレット

UNSWITCHED×1	200W MAX
SWITCHED×1	100W MAX

寸法 (W×H×D)

473×170.5×454.5mm

重量

32.0kg

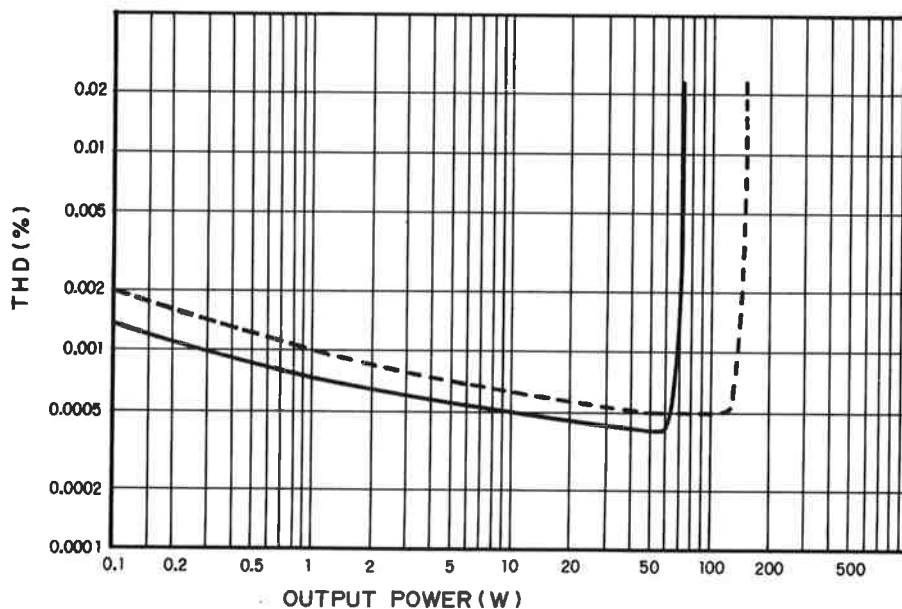
付属品

システムコード

*仕様及び外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

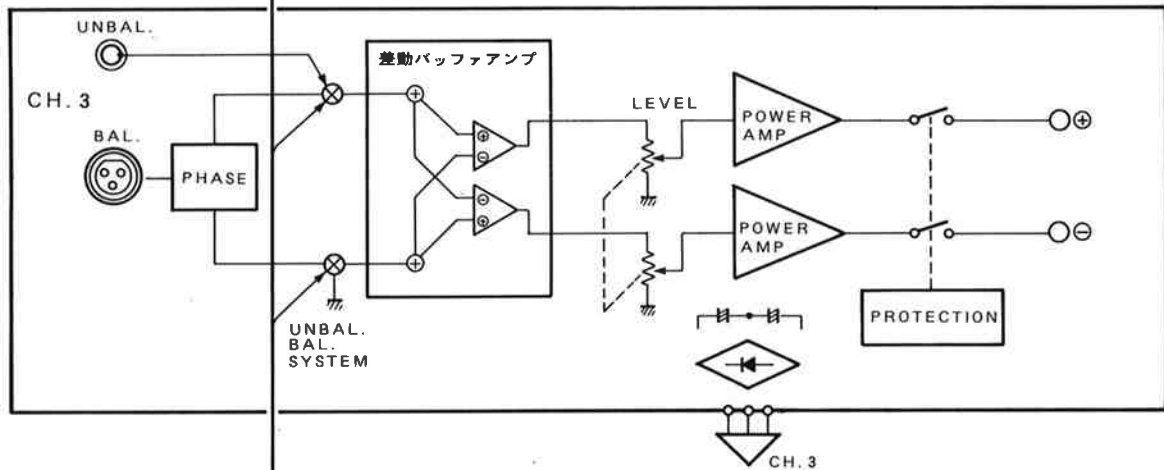
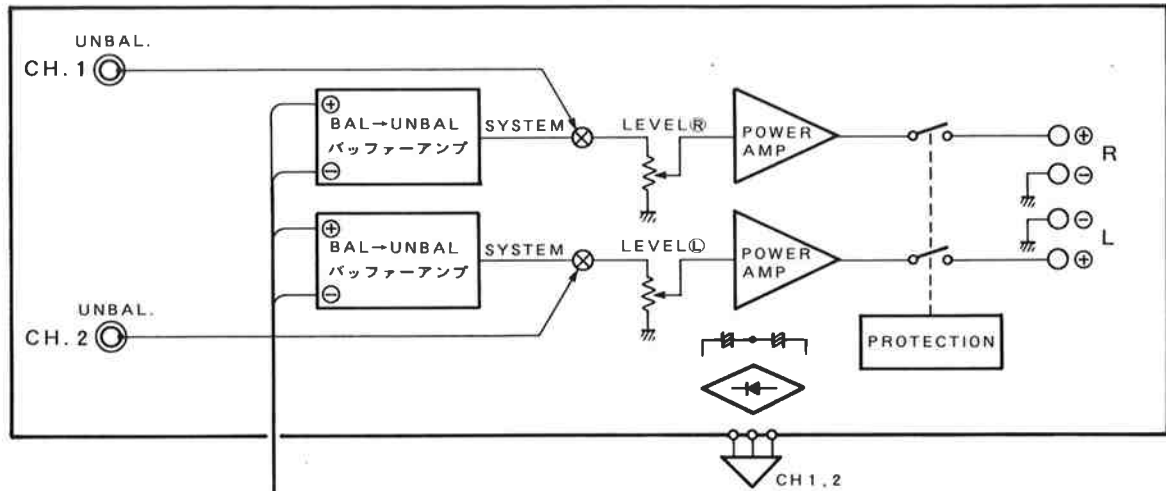
■特性図

・出力対全高調波歪率特性 (負荷6Ω)

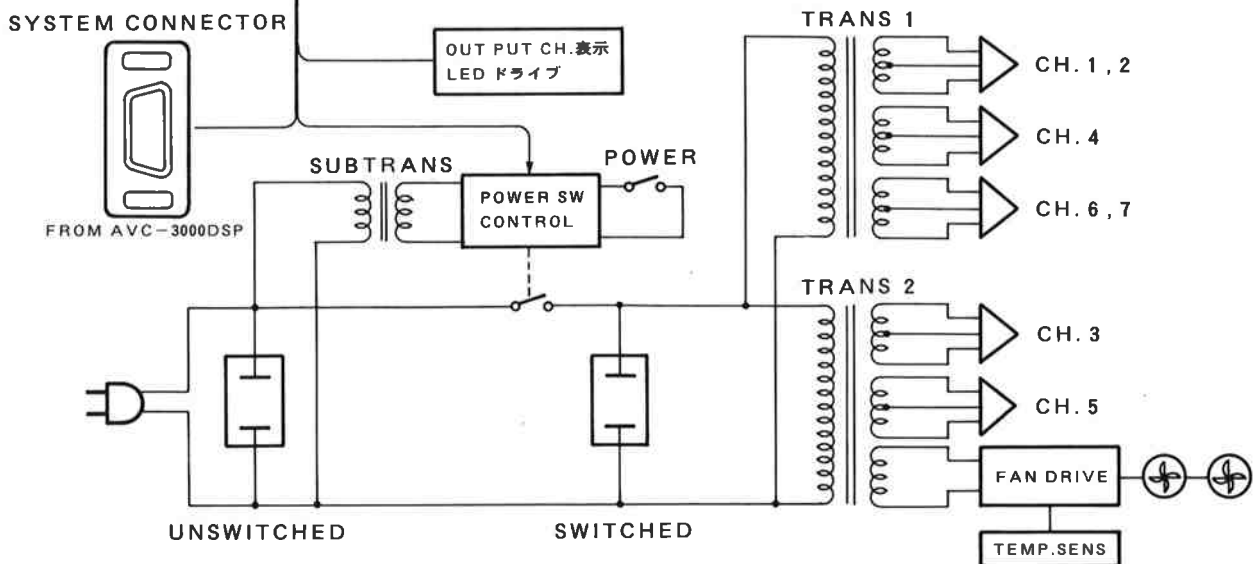


————— CH 1, 2, 6, 7 動作時
 f : 20 kHz
 実測ch 6.
 - - - - - CH 3, 4, 5 動作時
 f : 20 kHz
 実測ch 3.

ブロックダイアグラム



CH. 4	CH. 4はCH. 3と同様
CH. 5	CH. 5はCH. 3と同様
CH. 6, 7	CH. 6, 7はCH. 1, 2と同様



ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- 保証期間
お買い上げ日より1年間です。
- 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

- 北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
Tel(011)513-5036
- 仙台 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
Tel(022)236-0249
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
Tel(025)243-4321
- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
Tel(03)3255-2241
- 首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184
Tel(044)434-3100
- 浜松 〒435 浜松市上西町911ヤマハ(株)宮竹工場内
Tel(053)465-1158
- 名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
Tel(052)652-2230
- 大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
Tel(06)877-5262
- 神戸 〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内
Tel(078)321-1195
- 四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
Tel(0878)22-3045
- 広島 〒731-01 広島市安佐南区西原 2-27-39
Tel(082)874-3787
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
Tel(092)472-2134

- 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
Tel(03)3255-5691
Tel(03)3255-6767
- 名古屋 〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28
Tel(052)232-5740
- 大阪 〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17
なんば辻本ニッセイビル
Tel(06)647-6411
- 本社 〒430 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
お客様ご相談センター
Tel(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

Tel(053)460-3451

品質保証室

Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA